



小平・生活者ネットワーク

ニュース NO. 118

2013年10月20日発行

1. 「なつかしい未来」を市民の意志でつくる
2. 3市共同資源化施設について考える、地域包括支援センターへヒヤリング
3. 気軽に立ち寄れるご近所のような場所、NO!寝たきりデー2013、発泡障がい子どもたちの放課後事業がスタート
4. 窓、電磁波調査、インフォメーション、なんかいん



グリーンロードの一環を成す野火止用水。玉川上水や農地、樹林とともに、小平の豊かな緑を創っている

『なつかしい未来』を市民の意志でつくる

持続可能な環境・福祉融合型社会を

景気回復は大切なことですが、日本社会はそれだけで解決しない課題も抱えており、経済成長を前提とした拡大志向からの発想転換が求められています。

経済成長では解決しない 日本が背負う問題

GDPが上がっても、環境破壊や雇用崩壊によって新たに発生する社会的コストがあれば、全体の経済バランスは損なわれます。福島原発事故では大規模な環境汚染が現実のものとなり、16万人を超える人がいまだに避難生活をしていきます。また、非正規雇用やブラック企業の存在で、未来ある若者が「使い捨て」にされている現状は、目の前の経済効果だけを追った動きであり、将来へのツケは免れません。

東京を除く日本全体ですでに人口減少が始まっており、小平市も2015年にはピークを迎える予測です。少子化にも歯止めがかかっていない中で、超高齢社会に突入したいま、経済指標だけを見ていると見落とすものがあります。

人口減少社会では経済を維持していくにも努力が必要です。これまでの拡大路線ではなく、人々の幸せと環境保護を目的とした経済活動を創出し、持続可能な成熟型社会をめざすことが求められています。

地域にあるものを活かす チャレンジを

こうした発想転換は地域レベルだからこそ可能です。「コンクリートから人への価値転換は国という巨体での舵取りではなく、成功しませんでした。小回りが効く形で目の前の社会資源と自然環境を活用できるのは地域であり、その実現こそ自治・分権なのです。

千葉大学教授の広井良典氏は、福祉と環境を融合させたコミュニティ経済を

活性化し、地域でお金をまわしていくことを提唱しています。高齢者が買い物しやすい商店街、太陽光など自然エネルギーの活用、若者の起業による事業創出、農業を活かした緑地保全や産業活性、団地でのコミュニティ・ビジネス……。どれも小平にあるものです。

『なつかしい未来』の創造 小平のまちづくりのコンセプト

いま日本経済は企業型福祉も崩れ、たがたの状態です。被災地の復興も途上の中、オリンピックによって投資が東京都心への一局集中とならないよう、地域を豊かにしていくことが必要です。

ビルが林立し道路が交差する都市をめざすのではなく、いつて昔にもどるのでもなく、あるものを活かしつつ新しいまちをつくりあげていく。生活者ネットワークは『なつかしい未来』を意識的に小平で創造していくことで、持続可能な社会づくりを地域から進めていくことを提案していきます。(日向みき子)

